



平成 21 年 4 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ビーイング
代表者名 代表取締役社長 津田 能成
(JASDAQ コード 4734)
問合せ先 経理部長 後藤 伸悟
(TEL. 059-227-2932)

連結決算の開始に伴う連結業績予想の公表ならびに

個別業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 3 月期第 3 四半期より連結決算に移行いたしましたので、平成 21 年 3 月期の通期連結業績予想を公表いたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 10 月 17 日に公表した個別業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結決算開始について

当社は、平成 20 年 12 月 16 日に設備業向け CAD ソフトウェアの分野で優位を持つ株式会社プラスバイプラスドットコムを 100%子会社といたしました。これに伴い、当期から連結決算に移行いたしますので本日、連結業績予想の開示をいたします。

平成 21 年 3 月期通期連結業績予想（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
今回発表予想	百万円 2,240	百万円 △435	百万円 △405	百万円 △420	円 銭 △53 39

2. 個別業績予想の修正について

平成 21 年 3 月期通期個別業績予想の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,180	百万円 △285	百万円 △255	百万円 △250	円 銭 △31 78
今回発表予想 (B)	2,015	△415	△385	△400	△50 85
増減額 (B-A)	△165	△130	△130	△150	—
増減率 (%)	△7.6%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	1,833	△581	△556	△730	△91 71

修正の理由

【売上高】

当期は新しい商品コンセプトである「建設ICTソリューション」の投入により、期の後半にかけて売上の拡大を見込んでおりました。2008年秋以降、世界的な経済環境の急激な悪化に直面いたしました。営業努力により建設業アプリケーションの売上が当期下半期に立ち上がり、第4四半期にかけて顕著な伸びを示しております。

しかしながら、想定していた販売の拡大までには若干の遅れとなり、残念ながら計画を7.6%程度下回る見通しとなりました。

【営業利益、経常利益、当期純利益】

当期は、事業構造の大きな転機をおこなうため、中期的な商品戦略である「建設ICTソリューション」に重点的に商品開発関連投資を行うとともに、事業拠点ごとの徹底的な見直しにより販売費及び一般管理費の削減を継続的に行って参りました。この結果、コストの増加を最小限に抑えることができ、期の後半にかけてきわめて顕著な採算の改善を果たしましたが、通期では売上高の増加が計画の水準には遅れる見通しであり、残念ながら予想を修正いたします。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断した予想であり、実際の業績は様々な要因の変化により、予想数値と異なる場合があります。なお、当社はパッケージソフトウェアの開発・販売を主たる事業としているため、当社の業績は売上高の増減がほぼそのまま営業利益に影響するという特徴があります。

以 上